

ほっと通信



新年度になり 1 か月が経ちました。ほっと通信は、今年度も学校を訪問させていただいた際の様子や、特別支援センターからの情報をお伝えしていきたいと思います。

巡回相談と併せて、今年度もどうぞよろしくお願ひいたします。

『特別支援センターの巡回相談』

平成 19 年 4 月「八王子市特別支援センター」を教育センター内に開設しました。

現在、心理士 3 名、研究主事 2 名及び市教委職員 1 名が巡回相談を中心に活動しています。

心理士及び研究主事が行う巡回相談は、平成 19 年度に 249 回、平成 20 年度は、特別支援学校のコーディネーターとも連携し 421 回実施してまいりました。

平成 20 年度に訪問した学校は、小・中 108 校のうち 61 校でしたが、5 回以上訪問した学校が 31 校ありました。お互いに顔を合わせ、何度も話を重ねることにより巡回相談の活用方法をご理解いただいた学校からは、その後も多くの相談をお受けしています。

ただし、お互いの目指すところが整理できている場合もあれば、「期待していたことと違った」と批判をいただくケースがあるのも事実です。

巡回相談は「魔法」でも「特效薬」でもないので、すぐに児童・生徒や学級の状況が変わるものではありませんが、少しでも皆さんのお役に立つように活動していきたいと考えています。

児童・生徒の支援方法についてお困りになったとき、特別支援センターの巡回相談を利用してみてはいかがでしょうか。

*巡回の進め方について

心理士・研究主事などが、授業観察、発達検査及び聞き取りなどを通して発達の特性を見立て、先生方と一緒に校内での支援について考えていきます。

市教委の直営事業なので費用はかかりません。また、日程等は、なるべく学校や担任のご都合に合わせています。

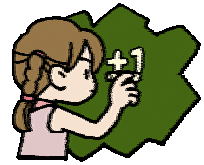
まずはお電話を。 特別支援センター 664-1615 (直通)



巡回相談の体験談等(各校の取組み)は、「ほっと通信」のバックナンバーをご覧ください。八王子市行政情報 NW のグループウェア「ドミノ・サーチ」にアップしてあります。

キーワード

『個別の教育支援計画・個別指導計画』



特別な支援を必要とする子どもの育ちや学びを支えていくためには、子どもに関わる様々な関係者(教育、医療、福祉、保護者など)が子どもの教育的ニーズや目標を共通理解し、対応していくことが大切です。

それらの情報を共有化し、教育的支援の目標や内容、関係者の役割分担などについてまとめたものが個別の教育支援計画です。その中で、学校での支援目標を具体化したものが個別指導計画です。「どうやって計画をたてたらいいのか」「目標をどこに設定すればいいのか」というところにばかり目が向きがちですが、計画を活用していくためには、一連の「サイクル」として機能させていくことが大切です。

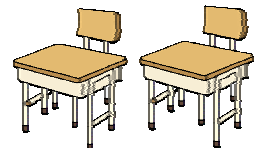
- * **実態把握**：子ども自身のニーズ、担任や保護者からの報告、子どもの長所や短所、興味関心、親の願い、発達検査の記録など様々な情報を集めます。それによって、子どもの困り感も明確になります。
- * **目標の設定**：抽象的なことは避け、具体的な目標(めあて)をたてると、その後それが達成できたか評価することができます。理想的な目標ではなく、現実的に達成可能な目標をたてます。
- * **指導計画の作成**：具体的な手立てをさぐります。評価の基準も明らかにしておきます。
- * **指導の展開**：目標や実践が妥当であったか見直し、必要に応じて修正を加えながら取り組みます。
- * **総合評価**：学期や年度ごとに、子どもの変化、目標は達成できたか、残された課題は何か等の評価を行います。そして、新たな実態把握、目標の設定へとつなげていきます。

書式にこだわる必要はないので、活用しやすい形式で作成してください。作成や評価は保護者の方も一緒に行えるとよいでしょう。個別指導計画の積み重ねは、進級・進学の際の引継ぎの資料ともなります。ぜひ作成した個別指導計画を活用していただければと思います。

【参考資料：『個別の指導計画作成ハンドブック』日本文化科学社 海津亜希子著】

ぽけっと

『教室の環境づくり』



子どもたちの中には、刺激の取捨選択が苦手で、ちょっとした刺激にも敏感に反応してしまう、という特性の子がいます。教室がすっきりしているとそれだけで集中しやすくなります。

本や教材などを片付ける棚にはカーテンをひいたり、不透明なフィルムを貼ったりして中身が見えないようにする、掲示物は教室後方へ整理して掲示するなどの工夫は多くの学校で取り入れているものだと思います。日課を黒板の隅に書いている学級も多いと思いますが、黒板にたくさんの情報があふれていると、授業中どこに注目していいのかわかりづらいこともあります。子どもたちが“今必要な情報”に注目しやすいように、1日を通して必要な情報はサブの黒板に書くといった工夫をしている学級があり、とても見やすいものでした。教室の前面がすっきりするよう、教員用の机は教室の後方に置く、にぎやかな学級目標の掲示は教室の後方にする、などの工夫や、掲示物がひらひらしないようビニルにはさんで掲示する、イスの足に使い古しのテニスボールをはめるなどの工夫で静かな環境づくりをしている学級もあり、どれも落ち着いたクラスの雰囲気につながっているように感じました。先生が目線からだけでなく、子どもたちの目線から見てもすっきりした環境づくりを心がけていただければと思います。(文責 心理士 中村)